

農 推 第 1140 号
平 成 30年4月16日

関 係 各 位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（4月）

大阪府内の4月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
春は強風の日が多いので、風のある時間帯は散布を避けるなど、薬剤散布の際はドリフトに注意しましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

◎ 「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎ 「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>▲病害虫防除グループ
ホームページ

▲防除指針

目次

1 水稲	P. 1
2 果樹(ぶどう、温州みかん、もも、バラ科果樹(もも、すもも、うめ等))	P. 2～4
3 野菜(たまねぎ、トマト・ミニトマト、なす)	P. 5～7

水稻

いもち病やもみ枯細菌病などの防除のため、種子消毒を行いましょう！

種子消毒、育苗

種子消毒

【薬剤を使用する場合の注意】

- ◆ **テクリードCフロアブル**、**スポルタックスターナSE**等で消毒する。
- ◆ 消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。

【温湯消毒の場合の注意】

- ◆ 60度の湯に10分間浸漬する。引き上げ後、直ちに流水中で冷やす。
- ◆ 温度ムラが出ないように、時々種子袋を揺する。

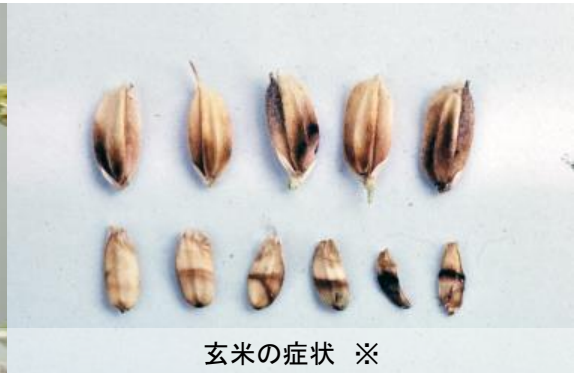
育苗準備

- ◆ 育苗箱などの資材は使用前に**ケミクロンG**、**イチバン**等で消毒する。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）



穂の被害



玄米の症状 ※

防除のポイント

- ◆ 特に出芽時の温度が高い場合に発病しやすいので、30度以下になるよう育苗時の温度管理に注意する。

苗立枯病



フザリウム菌による苗立枯れ *

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、**ダコニール1000**（リゾープス菌）（は種時から緑化期但し、は種14日後まで）、**タチガレエースM液剤**（ピシウム菌、フザリウム菌）（は種時又は発芽後）、**バリダシン液剤5**（白絹病菌、リゾクトニア菌）（は種時～発病初期）、**ベンレート水和剤**（トリコデルマ菌）（は種時1回又はは種時とは種7日後頃の2回）等をかん注する。

縞葉枯病



ヒメトビウンカ（雌成虫）※

特徴

- ◆ 縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。

防除のポイント

- ◆ 育苗ほかにヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。

● 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

● 農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所
*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

果樹

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			灰色かび病		
			ハスモンヨトウ		
みかん			アブラムシ類		
もも			せん孔細菌病		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ 発生に注意				

ぶどう(加温栽培)

灰色かび病



特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆孢子(分生孢子)が風などによって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

- ◆適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆開花直前または落花直後にゲッター水和剤(45日前まで)、スイッチ顆粒水和剤(30日前まで)、フルーツセイバー(7日前まで)等を散布する。

ハスモンヨトウ



幼虫 ※

特徴

- ◆早期加温栽培では3~4月に被害を受けやすい。

防除のポイント

- ◆卵塊が付着していたり、若齢幼虫が集団で食害している葉は、直ちに摘葉し、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。
- ◆成虫発生初期から終期まで、フェロモンディスペンサー(ヨトウコンーH)を設置する。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE(前日まで)、フェニックスフロアブル(14日前まで)、コテツフロアブル(60日前まで)等を散布する。

いちじく

霜対策

管理のポイント

- ◆霜除けは、遅霜の心配がなくなってから除去する。
- ◆霜害にあい樹勢が低下すると、カミキリムシ類など病害虫の被害を受けやすい。

温州みかん

アブラムシ類



ワタアブラムシ ※

特徴

- ◆新梢や葉裏に集団で寄生し吸汁する。
- ◆被害にあった葉は小さくなったり、巻いたりする。
- ◆排泄物が原因となり、すす病が発生し汚れる。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、**コルト顆粒水和剤**(前日まで)、**モスピラン顆粒水溶剤**(14日前まで)、**アルパリン顆粒水溶剤**(前日まで)等を散布する。

もも

せん孔細菌病 気象情報に注意し、強風や雨が予想される場合は予防的防除を徹底しましょう



春型枝病斑



葉の病斑

特徴

- ◆春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑(スプリングキャンカー)を生じる。
- ◆強風、降雨によって発生が助長される。

防除のポイント

- ◆発生が見込まれる時期に**バリダシン液剤5**(7日前まで)、**チオノックフロアブル**(7日前まで)、**アグリマイシン-100**(60日前まで)等を散布する。
- ◆春型枝病斑を見つけたら、切り取ってほ場外に持ち出し処分する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ



成虫

幼虫



うどん状フラス



被害枝

特徴

- ◆成虫は3～4cm。全体は光沢ある黒色で、前胸は明赤色。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。
- ◆幼虫は4月頃からうどん状のフラス（木くず・糞・樹脂の混合物）を出す。
- ◆成虫は6～8月頃に羽化、幹や樹皮の割れ目に産卵し、8～9日後には卵が孵化する。
- ◆うどん状のフラスがある穴には幼虫がいる可能性が高い。
- ◆若齢幼虫はうどんよりも細いフラスを出すことがある。

防除のポイント

- ◆フラスが見られた樹は幼虫が生息している可能性が高いので、成虫が羽化する6月上旬頃までに、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。
ネットは4mm目合いのものを、高さ2m程度まで2重に巻く。
ネットを樹幹に密着させると成虫がネットを噛み切るので、樹幹との間に余裕を持たせる。
- ◆ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだい捕殺する。
- ◆伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が拡散することを防ぐ。
- ◆フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してから**ロビンフード**（前日まで）、**ベニカカミキリシエアゾール**（前日まで）を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。



ネット被覆(さくら)

4月11日付で防除情報「クビアカツヤカミキリに警戒！！」を公表しました。
詳細はホームページを参照して下さい。 <http://www.jpnn.ne.jp/osaka/>



野菜

4月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並		やや多い	多い
たまねぎ				べと病		ネギアザミウマ	
				白色疫病			
トマト・ミニトマト (施設栽培)			すすかび病・ 葉かび病	コナジラミ類・ トマト黄化葉巻病(TYLCV)			
なす			すすかび病・灰色かび病			アザミウマ類	

たまねぎ

べと病 二次感染の時期です。気象情報に注意し、予防的防除を徹底しましょう。



二次感染株

特徴

- ◆ 苗床・定植後に、前作の作物残さなどから感染し、1～2月に越年罹病株として病徴を現す。

防除のポイント

- ◆ 予防散布として、**ジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤**（3日前まで）、**ランマンフロアブル**（7日前まで）を散布する。
- ◆ 発生を認めたら、**リドミルゴールドMZ**（7日前まで）、**ベトファイター顆粒水和剤**（7日前まで）か**プロポーズ顆粒水和剤**（7日前まで）を散布する。
- ◆ 発病した株は感染源となるので、抜取る。抜き取った株は肥料袋などに集め、石灰窒素を加えて密封するなど、ほ場外へ持ち出した上で、適切に処分する。

注意

【べと病・白色疫病】ジマンダイセン水和剤(5回)
 【べと病のみ】ペンコゼブ水和剤(5回)
 【べと病・白色疫病】リドミルゴールドMZ(3回)

上記薬剤は同一成分マンゼブを含む。
 マンゼブの総使用回数は5回以内。

病害虫防除情報

「たまねぎべと病の予防散布を徹底しましょう！」
 も参考にしてください(平成30年3月1日発表)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H29nd/H29yosatu.html>



●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

白色疫病



特徴

- ◆春が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆発生が見込まれる時期に、予防散布として、ランマンフロアブル（7日前まで）、ジマンダイセン水和剤（3日前まで）を散布する。
- ◆発生を認めたら、リドミルゴールドMZ（7日前まで）かプロポーズ顆粒水和剤（7日前まで）を散布する。

注意

- 【べと病・白色疫病】ジマンダイセン水和剤（5回）
- 【べと病のみ】ペンコゼブ水和剤（5回）
- 【べと病・白色疫病】リドミルゴールドMZ（3回）

上記薬剤は同一成分マンゼブを含む。
マンゼブの総使用回数は5回以内。

ネギアザミウマ



ネギアザミウマ ※

特徴

- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤を連用を避け、ローテーション散布する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ディアナSC（前日まで）、モスピラン顆粒水溶剤（7日前まで）、プレオフロアブル（3日前まで）を散布する。

トマト・ミニトマト（施設栽培）

すすかび病・葉かび病



被害葉※

特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
《すすかび病》
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病よりかびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、トリフミン水和剤（前日まで）、スコア顆粒水和剤（トマトのみ、前日まで）などを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

コナジラミ類・トマト黄化葉巻病(TYLCV)



トマト黄化葉巻病発症株

特徴

- ◆ トマト黄化葉巻病（TYLCV）は、コナジラミ類により媒介される。

タバココナジラミ
※

防除のポイント

- ◆ 感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆ 感染株からの二次伝染を防ぐため、除去した株はビニル袋等に密閉して完全に枯死させる。
- ◆ ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除去を徹底する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。

なす

すすかび病 ・ 灰色かび病



すすかび病

防除のポイント

- ◆ 保温のためハウスを閉め切ることが多くなるが、適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤（すすかび病、灰色かび病）（前日まで）を発生を認めたら
スコア顆粒水和剤（すすかび病）（前日まで）、カンタスドライフロアブル（すすかび病、灰色かび病）（前日まで）を散布する。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ 苗からの持ち込みによる発生が多く見られている。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、ディアナSC（前日まで）、プレオフロアブル（ミナミキイロアザミウマ）（前日まで）、モベントフロアブル（前日まで）を散布する。